

# 令和元年度 施策評価シート

## 1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~		
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -		
重点プロジェクト				
主管課	教育部 社会教育課	評価責任者	皆川 恒晴	
		評価日	令和元年5月29日	
関連課	学校教育課			
目標	地域の歴史・文化に多くの市民が興味や関心を持ち、歴史文化の継承がされるよう文化振興と文化財の有効活用を図ります。			
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 文化資源の保護と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民の歴史や文化に対する意識の高揚を図るとともに、市民や関連団体との協働により更なる歴史文化の継承と文化活動を推進します。</li> <li>○地域の歴史を知る上で重要な文化財の調査及び記録保存を行い、展示や報告書の刊行、学習講座の実施などを通じてそれらの成果を発信します。</li> <li>○小中学校と連携し、文化財資料を活用した地域学習を推進します。</li> <li>○お囃子などの地域の無形民俗文化財の継承のため、保存会の活動を支援します。</li> <li>○市内にある有形文化財等、地域の文化資源を社会教育や観光などで有効活用を図ります。</li> </ul>			

## 2. 施策指標と達成状況

網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策 目 標	指標 1	指標名	歴史文化に係る学習講座への参加人数					
		説明	歴史文化に係る学習講座などに参加した延べ人数。市民の歴史文化に対する意識の高揚を図る指標となるため。					
		単位	人					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
		実績値	1,221					
	指標 2	指標名	展示への来場者数					
		説明	展示会に来場した延べ人数。市民の歴史文化に対する意識の高揚を図る指標となるため。					
		単位	人					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900
		実績値	7,082					
	指標 3	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標 4	指標名						
		説明						
単位								
年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標 5	指標名							
	説明							
	単位							
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	26,058	28,494	75,042			
	人件費	113,989	121,204	102,794			
収入	特定財源	6,983	10,739	27,485			
	一般財源	133,064	138,959	150,351			

4. 評価対象年度の施策実施内容

網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組	展示や学習講座の開催	特別展「大地に生きる」、講演会「武蔵野台地北部の畑作用具」、学習講座「名主のしごと」「暮らしが統制される戦時下」、企画展「名主の群像」「ふじみ野に明治時代がやって来た」「出征と兵士の生活」等を開催した。	地域の歴史を知ってもらうための情報発信により、市民に市の歴史を理解してもらえる機会を提供できた。 小学校3年生対象とした「昔のくらしと昔の学校」の展示では、社会科授業の一環として有効活用を図れた。	歴史民俗資料館教育普及事業の一部 郷土資料館教育普及事業の一部
取組	地域学習の推進	学校で地域の歴史や民具を活用した体験学習が行えるよう、学校文化財展示室を文化財展示ボランティアと協働で設置した。	学校文化財展示室開設 さぎの森小学校文化財展示室開設準備 東台小 さぎの森小では、5年生の国語にてくる展示物を実際に使用。地域の文化資源を有効活用した授業を推進した。	文化財展示室設置・活用事業の一部
取組	地域の文化資源の有効活用	市指定文化財の回漕問屋福田屋（福岡河岸記念館）や国登録有形文化財の旧大井村役場等の文化資源活用した特別公開を開催した。 回漕問屋福田屋 特別公開11回 旧大井村役場 特別公開5回	特別公開と同時に資源を活かしたコンサート、古典芸能の公演、お話し会、裂き織、箆作り、水引の体験学習を開催し、重要文化財にもふれる事業が行えた。参加者からも好評であった（アンケート回答）。	歴史民俗資料館教育普及事業の一部 郷土資料館教育普及事業の一部
取組				
取組				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	文化資料の有効な活用を図る目的で、平成29年度の改修工事で構造強化を行った福岡河岸記念館の三階建て離れや旧大井村役場を利用した体験学習、コンサート、古典芸能の公演を行った。 また、学校の教室を利用した展示室を開設するにあたり、資料館の収蔵品である地域の民具や土器を有効活用した体験学習ができるように設置した。これらの活動は学校、保護者、子どもたち、参加したボランティアからの評価も好評で、継続して有効活用を図っていきたい。 また、市民ボランティアの協力を得てこれらの展示室開設準備や、福岡河岸記念館の特別公開を行うことができたことから、今後も文化財に対する市民の理解者を増やし、ボランティアの拡充を進めていきたい。 平成31年4月1日施行の文化財保護法の改正では、地域の文化資源の保存と活用の推進がうたわれているので、引き続き文化資源の有効活用を推進していく。
行政資源の活用	
取組の有効性	
施策の効果	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		文化財保護事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目					
一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費					
所管部課		教育部 社会教育課		評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等					
文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市文化財保存事業補助金交付要綱、ふじみ野市文化財保護審議会に関する規則					
事務事業の内容	事務事業の目的	市域に残された文化財を後世まで永く伝えるとともに市民が文化財への理解を深めるための一助とする。			
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）に基づいて事業を実施している。			
	事務事業の概要	文化財を次世代に継承していくため、文化財の保護・保存及び普及・啓発事業を実施する。 1 文化財保護審議会の開催（年3回）：補助金審査及び市指定文化財の諮問、答申を行う。 2 文化財保存事業補助金の交付：市指定文化財4件、文化財保護団体等4件を上限に補助金を交付する。 3 市指定文化財管理事業：民間・個人等管理の市指定文化財20件に対し管理謝礼を支払う。川崎遺跡古墳墳時代住居跡・復元大井戸・権現山古墳群については業務委託により清掃、修繕等を実施する。 4 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業：文化財に触れる機会を作るために体験学習事業等を行う。 5 小学校文化財展示室設置：児童が文化財に親しむ環境を作るために順次各校に展示室を設置する。			
	令和元年度の主な取組	1 市指定文化財の管理：市指定文化財総数57件のうち20件に対し管理費謝礼、離子保存会4件に対し補助金を支出した。 2 文化財普及啓発：市広報へ「歴史さんぽ」連載。文化財案内板「市指定文化財 阿弥陀一尊画像板碑」の修繕を実施した。 3 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業：平成28年度、29年度に地方創生拠点整備交付金により改修工事を実施した「福岡河岸記念館」「旧大井村役場」の活用事業として体験学習等の事業を実施した。 4 小学校文化財展示室の設置：資料館と連携し、さぎの森小学校と東台小学校に文化財展示室を開設した。西原小学校については設置準備に着手した。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.00	1.45	1.15
		人件費	8,096	11,569	9,175
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		8,096	11,569	9,175	
事業費	報酬	208	252	252	
	賃金	0	0	0	
	需用費	217	222	290	
	委託料	105	106	1,018	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	210	859	262	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	437	450	531	
支出合計		9,272	13,458	11,528	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	48	27	98
一般財源		9,224	13,431	11,430	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		81	117	98	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標	指標名	指定・登録文化財の件数		
	説明	指定・登録文化財の所在数は、市の文化財保護行政の取組みの度合いを示すバロメーターである。最新の文化財指定は、平成31年1月23日指定の「ハケ遺跡古墳群1号墳出土埴輪」（人物埴輪7点）である。		
活動	単位	件		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	58	58	58
	実績値	57	57	
指標	指標名	民俗芸能調査及び民俗文化財の保存事業補助団体件数		
	説明	囃子などの市内に残る伝統芸能の現況調査や民俗芸能保持団体への事業補助を行った件数により民俗文化財保護の取り組みの指標とする。令和元年度は市指定文化財に指定されている囃子保存会4団体への事業補助を行い、次世代育成や面の修繕等を実施することができた。		
活動	単位	件		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	4	6	6
	実績値	4	4	
指標	指標名			
	説明			
活動	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>1 文化財保護審議会：4回開催 文化財保存事業補助金審査、「ふじみ野市として収集していくべき文化財資料の基準及び保存に関する基準について」の諮問・答申、市長部局で検討を進めている文化施設基本計画・管理運営計画について検討を行った。諮問については、小委員会を設け、専門的な見地から、優先して収集すべき資料、ふじみ野市を特色づける文化財資料について検討し、答申にまとめた。</p> <p>2 市指定文化財の管理・保護 令和2年2月現在、市指定文化財総数57件である。そのうち25件については、管理費謝礼又は事業費の一部を補助等の対象にしている。今年度は地蔵院所蔵「しだれ桜」の修理（再治療）事業費に対し補助を行った。</p> <p>3 文化財普及啓発 市広報へ毎月「歴史さんぽ」を連載（資料館と隔月で担当）し、市内の文化財を紹介した。また、川崎阿弥陀堂にある「市指定文化財 阿弥陀一尊画像板碑」の案内板を修繕した。埼玉県指定史跡権現山古墳群では児童対象に夏休み権現山探検を実施した。権現山自然観察会を3月27日に行う予定だったが新型コロナウイルスの影響により中止にした。</p> <p>4 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業 平成28年度、29年度に地方創生拠点整備交付金により改修工事を実施した「福岡河岸記念館」「旧大井村役場」の活用事業として体験学習等の事業を実施した。 福岡河岸記念館 1回 7人参加 / 旧大井村役場 5回（うち2回は感染防止により中止）35人参加 旧大井村役場では本市出身の写真家嶋田忠氏の写真展を、7月2日から7月15日まで開催（13日間）し、486人の見学があった。体験学習参加者の55%が「初めて来館した」と回答しており、文化財の周知につながった。</p> <p>5 小学校文化財展示室の設置：資料館と連携し、さぎの森小学校（平成30年度開設）に続き、今年度は東台小学校に文化財展示室を開設した。現在、定期的な開室ができていないため、児童が繰り返し展示室に立ち寄れるような工夫、体制作りが課題である。西原小学校については設置準備に着手した。</p>
--------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	先人たちが大切に保存、継承してきた文化財は市民の宝であり、新たな文化創造の土台になるものである。そのため、地域の文化財を次世代に継承していくための保存事業や様々な媒体による情報の発信を継続していく必要がある。
中長期的方向性	また、福岡河岸記念館や旧大井村役場での体験事業や文化財ウォーキング等の事業への参加をきっかけに他の文化財や歴史に興味を持っていただくような流れを作ることが課題である。
継続	また、中長期的には、文化財行政及び資料館の管理運営に関する指針、計画を策定し、福岡河岸記念館や旧大井村役場などの活用を位置づけ、計画的に推進していく必要がある。事業を進めるにあたっては、文化財保護審議会委員や専門家の意見を参考にし、資料館・文化財ボランティアや文化財保護団体、地域住民などと連携しながら文化財保護の理解者、協力者を増やしていく必要がある。

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		埋蔵文化財調査事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目					
一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費					
所管部課		教育部 社会教育課		評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等					
文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱					
事務事業の内容	事務事業の目的	市域に残る埋蔵文化財の記録保存を行う。遺跡情報システムを運用することにより、市民への普及及び窓口業務等に活用する。			
	事務事業の経緯	文化財保護法及び県文化財保護条例・市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）及びふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱に基づいて事業に着手している。			
	事務事業の概要	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の記録保存調査を行う。 市民への埋蔵文化財の情報提供及び窓口業務対応のため、市内遺跡・文化財情報システムを運用しサービスの向上をはかる。			
	令和元年度の主な取組	1 埋蔵文化財包蔵地照会対応、発掘調査の実施。 調査の流れや手続きについて明記したチラシを作成し、窓口で配布した。 2 調査報告書『市内遺跡群24』の刊行。 3 最新出土品展の開催。 4 遺跡・文化財情報システムでは、発掘調査測量図を更新。2020年1月のWindows 7サポート終了に伴い、Windows XへのOS入替業務を期間内に実施した。 5 遺跡地図の増刷を行い、有償頒布を開始した。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.75	1.75	1.57
		人件費	14,168	13,962	12,526
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	8.99	12.94	11.02
	人件費	14,268	17,729	0	
人件費計		28,436	31,691	12,526	
事業費	報酬	0	0	21,264	
	賃金	13,918	17,294	0	
	需用費	1,473	1,456	1,738	
	委託料	1,215	1,133	1,245	
	使用料及び賃借料	3,652	3,687	7,664	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	2,509	3,310	4,511		
支出合計		36,935	40,842	48,948	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	3,600	3,960	5,500
		県支出金	1,800	1,980	2,250
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	2	33
一般財源		31,535	34,900	41,165	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		276	305	354	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	開発に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地への照会件数		
	説明	周知の埋蔵文化財包蔵地とその隣接地及び1,000㎡以上の大規模開発に伴い、施工主等の関係者からの問い合わせに対して行う。		
活動	単位	件		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	1,000	1,200	1,200
	実績値	1,513	1,391	
指標 2	指標名	本調査・試掘・立会い件数		
	説明	埋蔵文化財保護の保護、記録保存、埋蔵文化財包蔵地範囲確認のために本調査・試掘・立会いを実施した。		
活動	単位	件		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	50	50	50
	実績値	73	67	
指標 3	指標名	出土遺物等の公開		
	説明	文化財保護法の趣旨及び文化庁からの通達等に則り、出土遺物の展示公開を行った回数が市民への文化的遺産の還元の度合いの指標になる。		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	5	5	5
	実績値	5	5	

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>開発に伴う事前照会、事前協議書の提出、発掘の届出により遺跡包蔵地照会を行い、開発の方法によって、試掘調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査、工事立会いなどを行う。</p> <p>1 発掘調査の実績概要 窓口・電話等による包蔵地照会が1,391件あり、増加傾向にある。手続時の説明においては、フローチャートや図の利用、質疑応答をつけたチラシを必要に応じて配布し、埋蔵文化財の重要性と調査の必要性、調査の手順を周知することができた。 令和元年度の調査実績は、試掘調査が39件、本調査が3件、工事立会いが31件となった。</p> <p>2 埋蔵文化財の活用 調査の成果については、発掘調査報告書『市内遺跡群24』（平成28・29年度調査分）の作成及び刊行により保存・普及することができた。 多くの市民に埋蔵文化財の重要性とその調査の必要性を周知するために、「最新出土品展」を大井郷土資料館（令和元年7月20日～9月1日）、上福岡歴史民俗資料館（令和元年9月10日～9月27日）で開催し、調査により出土した遺物を公開した。 加えて今年度は、埼玉県立さきたま史跡の博物館最新出土品展「地中からのメッセージ」（令和元年7月6日～9月1日）にハケ遺跡第16地点より出土した人物埴輪2点の貸出、朝霞市博物館で開催された企画展「朝霞から見る古墳の出現～方形周溝墓から古墳へ～」（令和元年11月9日～12月15日）に権現山古墳群より出土した土器9点の貸出を行い、多くの方々に見ていただく機会を得た。また、今年度は西原小学校からの依頼で土器の貸出も行き、児童の郷土学習に貢献した。 遺跡・文化財の資料を基に地理情報システムを利用して構築した「文化財情報システム」については、令和元年度も更新構築業務を業務委託し、埋蔵文化財調査成果・発掘調査測量図等を更新した。また、令和2年1月のWindows 7サポート終了に伴い、Windows XへのOS入替業務を実施した。 また、遺跡地図の増刷を行い、有償頒布（1部300円）を開始した。</p>
--------------	---

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査事業を行っている。発掘調査の実施に当たっては工事主体者に対し十分な説明を行い、発掘調査及び開発が円滑に進むよう進めていく必要がある。
中長期的方向性	また、調査報告については整理作業終了後、速やかに報告書として刊行し、紙媒体及びデータでの公開を行ない、遺物等の展示公開を行うことで、市民の埋蔵文化財への理解を深めていく。
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		権現山古墳群保存管理事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目					
一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費					
所管部課		教育部 社会教育課		評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等					
文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例					
事務事業の内容	事務事業の目的	平成14年3月に作成した権現山墳墓群保存管理計画に基づき、埼玉県指定史跡権現山古墳群の保全及び活用を図る。			
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例に基づいて事業に着手している。平成14年3月22日に県指定史跡に指定され、平成15年度から県費補助を受けて整備事業を実施し、平成22年11月1日から公有地部分の一般開放を実施している。			
	事務事業の概要	県指定史跡権現山古墳群の保存管理及び活用事業を実施する。 市内滝地区の新河岸川沿いにある権現山遺跡は、3世紀後半から4世紀初頭に造られ、前方後方墳1基と方墳11基の古墳からなっている。墳丘が現存する希少な初期古墳群であり、古墳文化の波及状況を示す上で学術的に重要な遺跡であるとして、遺構が良好に残存する6基の古墳と出土土器7点が平成14年3月22日に埼玉県指定史跡に指定された。 古墳に張り巡らされた溝から出土した壺や高坏は、葬送儀礼に用いられ、古墳の年代を判断する上で手がかりとなる。これらは現在、上福岡歴史民俗資料館に常設展示され、郷土史の一端を伝えている。			
	令和元年度の主な取組	1 管理計画に基づき、敷地内の伐木作業を実施。 2 市民参加によるボランティア活動については、権現山クラブによる定期的な清掃活動を実施し、一般から市民参加を募り、年末に2回清掃活動を実施している。 3 見学会及び団体見学会については、夏休み権現山探検（自然教室）を実施した。また上野台小学校の小学校1年生の課外学習活動に協力を行った。令和元年度の権現山自然観察会については、令和2年3月27日（金）に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.50	0.70	0.65
		人件費	4,048	5,585	5,186
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		4,048	5,585	5,186	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	19	13	20	
	委託料	1,031	705	809	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	18	14	15	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	0	0	0	
支出合計		5,116	6,317	6,030	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		5,116	6,317	6,030	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		45	55	52	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標	指標名	遺跡及び緑地保全のための整備		
	説明	埼玉県指定史跡範囲及びその周辺を散策する遊歩道整備等の工事、説明板を設置した作業、管理作業の回数により、古墳群保護の指標とする。		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	1	3	3
	実績値	3	4	
指標	指標名	市民参加によるボランティア活動		
	説明	地域住民が実施している自主的な清掃、見回りや普及活動の回数をもって、史跡保存に対する市民参加の度合いを測る。		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	12	12	12
	実績値	12	12	
指標	指標名	見学会開催及び団体見学		
	説明	一般開放への入場者は現地でカウントすることが困難なため、団体見学の申し出と市が主催する見学会及び展示等の回数をもって、市民・関係者による活用の度合いを算出する。 (新型コロナウイルス感染防止により事業を1件中止したため前年度比1件減となった)		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	3	3	3
	実績値	4	3	

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>1 公有地部分の一般開放（平成22年11月1日～）</p> <p>2 管理及び教育普及事業</p> <p>(1)清掃・除草・剪定等 指定文化財清掃委託事業 通年で草むしり、ゴミ拾い、落葉清掃を実施。職員による剪定、枯れ木の伐採を随時実施。業者委託による伐木作業については令和元年10月26日より2日間実施。</p> <p>(2)カラーリーフレットの配布 平成24年2月から職員手作りによるリーフレットを作成・配布した。</p> <p>(3)市民ボランティアとの協働活動 権現山古墳群の周知と市民の文化財愛護の意識を育てることを目的として、権現山クラブと協働し、落ち葉掃きを実施した。（12月29日、令和2年1月5日） また、老木で倒木の可能性があるため、伐木したサクラの枝を発根させ、挿し木による植樹を行った。</p> <p>(4)権現山古墳群史跡の森観察会 実施日 3月27日（講師 県立自然の博物館学芸員 須田大樹氏） 新型コロナウイルス感染拡大防止により中止</p> <p>(5)夏休み権現山探検 実施日 8月6日 内容 権現山古墳群で土（腐葉土）を持ち帰り、土中の生き物を顕微鏡で観察した。 講師 久津間文隆氏（本市文化財保護審議会委員） 参加者 22人（子ども13人、保護者9人）権現山クラブ2人、資料館・文化財ボランティア1人、葦原中学校自然科学部員9人、顧問1人、学芸員実習生2人、葦原中学校OG2人</p> <p>(6)福岡小学校1年生権現山どんぐり拾い 実施日 10月10日 内容 福岡小学校児童の校外学習として、権現山のどんぐり採取を行った。 参加者 福岡小学校1年生125人・教員4人</p>
--------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>県指定史跡を含む権現山古墳群の古墳と自然を後世に伝えていくため、計画的な整備の実施や周知のための活動を行い、より一層多くの方に足を運んでもらうよう公開や活用事業を展開していく。 また、後世に伝えていくためには市民の文化財愛護意識が重要であるため、権現山古墳群の保存、公開、活用を通じて文化財ボランティアの更なる増員を図っていく。</p>
中長期的方向性	
継続	



# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		民間開発発掘調査事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目					
一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費					
所管部課		教育部 社会教育課		評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等					
文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱					
事務事業の内容	事務事業の目的	市域の開発工事に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施することにより、文化財の記録保存を行う。			
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例・ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱に基づいて事業に着手している。			
	事務事業の概要	本市内における民間開発発掘調査事業は、業者・個人が建売・集合住宅建設、店舗建設など営利を目的とした開発を行う際に、試掘調査を経て市と関係者が協議し、開発行為により遺跡保存ができない場合に原因者負担と言う形で調査を実施する。その成果は報告書の作成・刊行により原因者に報告するとともに、遺構等の記録保存と後世への普及・伝達を図ることができる。 発掘・整理（遺物整理等及び報告書刊行）を複数年度で実施するため、発掘調査開始時に契約書を原因者と作成し、市が原因者から調査委託されるという形で契約を締結する。埋蔵文化財調査事業と同様に、市民・開発業者に埋蔵文化財の重要性とその必要性の周知と教育普及を行う。			
	令和元年度の主な取組	埋蔵文化財調査事業も含め遺跡包蔵地内での調査件数が前年に比べて少ない。 本年度提出された事前協議書85件、発掘届出80件の内、民間開発発掘調査を実施したのは1件のみだった。整理作業については、本年度新規1件実施し、『市内遺跡群24』（令和元年度刊行）において報告した。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.25	0.60	0.55
		人件費	10,120	4,787	4,388
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.08	0.00	6.25
	人件費	139	0	0	
人件費計		10,259	4,787	4,388	
事業費	報酬	0	0	11,916	
	賃金	139	335	0	
	需用費	215	19	1,094	
	委託料	0	0	2,595	
	使用料及び賃借料	100	118	2,825	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	11	1	777	
支出合計		10,586	5,260	23,595	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	1,099	549	19,207
一般財源	9,487	4,711	4,388		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		83	41	38	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	民間開発発掘調査・整理の件数		
	説明	民間開発による文化財破壊を防ぎ、市民・関係者の理解・協力により文化財保護を達成できた指標として設定した。		
活動	単位	件		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	10	10	10
	実績値	6	1	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	民間開発発掘調査事業に係る発掘調査の実績概要
	<p>1 令和元年度事前協議書と発掘の収受件数</p> <p>(1)事前協議書 85件</p> <p>【主な内訳】</p> <p>試掘調査実施 31件</p> <p>本調査実施 4件（個人住宅3件・民間開発1件）</p> <p>工事立会い 44件（1,000㎡以上開発、埋蔵文化財隣接地含む）</p> <p>平成30年度からの繰越 4件</p> <p>令和2年度への繰越 2件</p> <p>(2)発掘届け 80件</p> <p>【主な内訳】</p> <p>発掘調査（工事等で埋蔵文化財が破壊される場合） 4件</p> <p>慎重工事（試掘調査のみの場合、本調査終了済等） 48件</p> <p>工事立会い（埋蔵文化財への保護層が確保される場合等） 28件</p> <p>始末書（事前協議・発掘の届未提出で土木工事実施） 0件</p> <p>2 実施状況</p> <p>合計 2件</p> <p>(1)発掘調査実施 合計1件</p> <p>本村遺跡第136地点（本調査 平成31年4月10日～19日）</p> <p>(2)整理作業 合計1件</p> <p>本村遺跡第136地点</p>

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査事業を行っている。民間開発による発掘調査の費用は工事主体者側が負担することから、今後も工事主体者に対し十分な説明を行い、発掘調査及び開発が円滑に進むよう進めていく必要がある。
中長期的方向性	また、調査報告については整理作業終了後、速やかに報告書として刊行し、紙媒体及びデータでの公開を行っていく。
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		歴史民俗資料館管理運営事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館運営協議会規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	市民の郷土に関する教育、学術・文化の発展に寄与するため、旧上福岡地域の歴史、民俗を紹介することを通して、先人たちが育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集・保存すると共に、これらの資料を多くの市民に知ってもらうよう展示公開するための施設整備、維持管理を行う。			
	事務事業の経緯	開館以来、市民の郷土に関する教育、学術及び文化の発展に寄与するため、歴史・民俗を紹介することを通して、先人が育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集し・保存すると共に、これらの資料を多くの方々に知っていただくように展示公開するための施設の維持管理に務めてきた。			
	事務事業の概要	上福岡歴史民俗資料館の施設維持、管理及び開館業務			
	令和元年度の主な取組	資料館事業に市民や小中学校の意見を反映させるため資料館運営協議会を開催した。来館者の安全安心を視点に資料館施設管理（機械警備・消防設備保守点検・自動ドア保守点検・塵芥収集・清掃・樹木剪定）を実施した。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.24	1.18	1.60
		人件費	10,040	9,415	12,765
	再任用職員	従事人数(人)	0.80	0.80	0.80
		人件費	2,945	3,076	3,076
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		12,985	12,491	15,841	
事業費	報酬	28	48	48	
	賃金	0	0	0	
	需用費	997	1,260	1,058	
	委託料	1,379	1,269	1,413	
	使用料及び賃借料	26	25	23	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	24	24	24	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	152	160	160		
支出合計		15,592	15,277	18,567	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	1	1	2
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	175	139	5
一般財源		15,416	15,137	18,560	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		135	132	160	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者の拡大		
	説明	市民のニーズを反映した資料館運営を行い、地域密着型の社会教育施設として入館者の増加を目指す。		
活動	単位	人		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	5,500	4,600	4,650
	実績値	4,445	4,587	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>資料館事業に市民や小中学校の意見を反映させるため資料館運営協議会を開催した。委員は校長、小中学校社会科教諭、文化財審議委員、資料館活動団体、学識経験者など多方面の委員で構成されていることから幅の広い意見をいただいております、更なる運営向上につながるものと考えています。</p> <p>今年度は計4回運営協議会を開催し、「ふじみ野市として収集していくべき文化財資料の基準及び保存に関する基準」や新文化施設に関する有益な意見を多数いただきました。</p> <p>来館者の安全安心を視点に資料館施設管理（機械警備・消防設備保守点検・自動ドア保守点検・塵芥収集・清掃・樹木剪定）を実施した。点検により、館内の非常灯の不具合が見つかったため、不具合のあった非常灯の交換を行い、非常時の安全管理に努めた。多くの方々安心して来館でき、快適に見学できるよう対応することにより、来館者の増加につながると考える。</p>
------------------	---

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民の郷土に関する教育、学術・文化の発展に寄与するため、旧上福岡地域の歴史、民俗を紹介することを通して、先人たちが育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集・保存すると共に、これらの資料を多くの市民に知ってもらうよう展示公開し、地域への愛着を深めるものである。
中長期的方向性	
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		歴史民俗資料館教育普及事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目					
一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費					
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年7月3日
個別計画根拠法令・条例等					
博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館の資料に関する規則					
事務事業の内容	事務事業の目的	市民から寄贈された貴重な文化遺産を保存し、地域の特徴を意識した資料収集を行い、資料の調査研究の成果を常設展示及び特別展・企画展、学習講座を実施することにより、紹介、活用する。また必要に応じて成果の一部を図録等の刊行物にまとめて展示成果の追体験が行えるようにする。			
	事務事業の経緯	歴史や郷土史、文化財への関心をもつ市民の学習ニーズに応えるために講座・体験学習及び特定のテーマを決めて展示会を実施している。内部講師の活用や資料館利用団体との協働事業の開催、特別展の会場を大井郷土資料館とする事業分担等により経費削減を図るとともに、「ふじみ野市」の資料館としての役割の再構築を試みている。			
	事務事業の概要	市の歴史・民俗のなかでも、新河岸川を展示主題においた常設展示を行うとともに、これまでの調査研究の成果を、テーマを設けて、実物資料や写真パネルなどで構成する特別展・企画展等の開催をとおして紹介する。市民対象の学習講座・体験学習等の実施及び市民から提供された貴重な資料の収集整理を実施する。			
	令和元年度の主な取組	資料館友の会と協働して「藍染作品展」、学習講座「学徒が語った陶器製の手榴弾と地雷」、2回の子ども向け体験学習「竹とんぼ作り」「凧作り」を開催した。地域協働学校の取り組みとして福岡小の学習への協力を行っている。また小学校3年生向けの「昔のくらし」についての展示や上福岡地域の小学校児童の授業の一環としての受け入れによる体験学習等を友の会と協働して行った。特別展上福岡会場として地元の漫画家の方と協力し現在の娯楽史としてゲームの展示や子どもたちの趣味、娯楽のアンケートを行った。また本市の歴史・考古・民俗について、学習講座や3回の企画展、マンネリの印象をめぐうために随時のミニ展示を行っている。一方で、寄贈資料の整理、台帳づくり及びデータ化作業を進めている。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.40	1.40	1.40
		人件費	11,335	11,170	11,170
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.10	0.10
		人件費	369	385	385
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.80	0.79	0.82
	人件費	80	1,087	0	
人件費計		11,784	12,642	11,555	
事業費	報酬	0	0	1,172	
	賃金	1,084	1,082	0	
	需用費	153	135	136	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	274	107	231		
支出合計		13,215	12,879	13,094	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	172
一般財源		13,215	12,879	12,922	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		116	113	111	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標	指標名	講座・体験学習の実施回数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化、歴史資料に対する意識の高揚を図る指標となるため、継続的な実施回数が有効な指標と考えられる。令和元年度は、3月のコロナウィルス感染症対策のため、2事業が中止になった。		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	14	14	14
	実績値	13	13	
指標	指標名	記念館を含めた展示会の回数		
	説明	継続的な実施回数が評価の有効な指標と考えられる。また、普段非公開の河岸記念館「離れ」の特別公開日及びミニ展示を含む。		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	8	20	20
	実績値	13	22	
指標	指標名	フェイスブック、ツイッターの「いいね」、RT、シェア数		
	説明	資料館事業の活動指標をリアルタイムに近い形で反映でき、それに対する市民等の反応が具体的に数値化でき、関心の方向性が把握できるため。10回投稿予定×5(いいね、RT及びシェア数5回)		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	50	50	50
	実績値	24	77	

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	1 展示事業
	<p>(1)上福岡歴史民俗資料館企画展（会場：2階ホール） 企画展（平成30年度からの継続事業）「ふじみ野に明治時代がやってきた」（会期：3/26～5/26）928人 企画展「戦時代用品としての陶器」（会期；7/27～9/1）534人 巡回企画展「最新出土品展」（会期：9/10～9/29）389人 大井郷土資料館でも実施 特別展「ふじみ野150年」上福岡会場（トレーディングカードゲームなど現代の娯楽史）575人 企画展「懐かしのレコードinふじみ野」（会期：令和2年3/28～5/24）</p> <p>(2)ミニ展示 企画展示の合間に小規模な資料展示を計4回実施</p>
事務事業の実施内容・効果	2 教育普及事業
	<p>(1)学社連携事業として、小学校6年生向け資料館案内リーフレットの発行、博物館学芸員実習生受け入れ(2人)、中学生職場体験受け入れ(4校10人)の実施、小学校3年生対象社会科体験学習及び展示「昔のくらしと昔の学校」（会期；1/14～2/26 総見学者数1,019人、うち児童数5校470人)を実施した。</p> <p>(2)成人対象体験学習を年2回（はたおり、藍染め）、子ども対象体験学習を年3回（郷土の伝承あそび、夏休み子ども文化財教室）を実施した</p> <p>(3)一般を対象とした歴史・民俗・考古などをテーマにした学習講座を年3回実施（うち特別展関連講座として平成初期の上福岡駅前少年たちの遊びについての講座を1回を大井資料館で実施）</p> <p>(4)団体学習者の受け入れ、上福岡歴史民俗資料館友の会との相互協力、資料館文化財ボランティアの運営、出前講座等を実施した。</p>
事務事業の実施内容・効果	3 資料保存活動
	<p>年間を通し寄贈資料の受け入れ、登録及び資料整理を行い、収蔵資料のデータベース化を進めた。 上記1～3の事業を通して、郷土の歴史に対する理解を深める機会を提供するとともに、資料の公開及び活用を進めた。</p>

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民にとって最も身近に接することが多い常設展示に加えて、資料館と市民が一体となって実施する企画展、市民が講師になる体験学習や講座は、地域の歴史や文化を伝えるために必要不可欠な事業である。今後も「郷土ふじみ野」を市民に再認識・再発見してもらうための重要な機会として継続する。
中長期的方向性	
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名	文化財展示室設置・活用事業		前年度の方向性	継続
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~		
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -		
予算費目	一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課	教育部 上福岡歴史民俗資料館	評価責任者	高崎 直成	
事務事業期間	平成28年度~	評価日	令和2年7月3日	
個別計画 根拠法令・条例等	教育基本法、文化財保護法、学校教育法、社会教育法、博物館法、小学校学習指導要領 ふじみ野市資料館の資料に関する規則 ふじみ野市教育振興基本計画			
事務事業の内容	事務事業の目的	上福岡歴史民俗資料館や大井郷土資料館などで収集・保存してきた歴史資料は、地域にとって貴重な文化財である。そうした文化財を活用して、ふじみ野市、学校、地域住民が協働しながら、郷土ふじみ野を理解し郷土を愛する市民の育成をはかる。		
	事務事業の経緯	市内の小中学校には、30年ほど前から地域住民の協力によって収集された資料を活用した展示室がいくつか設置されている。教材への活用や地域の文化財としての関心や理解はあるが、資料の破損や解説の不備などから十分に活用されているとは言えない。そこで、体験学習を取り入れた展示を目指すため、展示室の再構築や新規設置に努めている。		
	事務事業の概要	市内各小中学校の教室や有効スペースに、既存の資料や上福岡歴史民俗資料館・大井郷土資料館などで収集・保存してきた資料を有効活用して文化財展示室の設置や文化財資料の展示をする。設置にあたっては学校、社会教育課（資料館・文化財保護係）、地域住民（以下文化財展示室ボランティア）が協働で行う。児童や教師が広く学習の場として活用するだけでなく、将来的には一般市民への公開・活用も視野に進める。		
	令和元年度の主な取組	さぎの森小学校ではさぎの森小学校文化財展示室構想に基づく構成案に従って文化財展示室を設置し、文化財保護係職員による5年生の国語授業などに使用している。 東台小学校では、東台小学校文化財展示室構想に基づく構成案を作成し、これに従って文化財展示室の設置した。 西原小学校文化財展示室では、特徴ある展示を行うための取り組みとして、地元の方から地域の歴史や生活などについて聞き取り調査を実施した。 福岡中学校では展示ケースで上福岡貝塚と火工廠など、地域の文化財の紹介を行った。		

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.90	0.50	0.90
		人件費	7,287	3,989	7,181
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
	人件費計	7,287	3,989	7,181	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	98	100	102	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	42	40	56		
	支出合計	7,427	4,129	7,339	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源	7,427	4,129	7,339		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		65	36	63	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	文化財展示室・文化財展示設備の設置数		
	説明	文化財展示室・文化財展示設備の設置作業を実施した小・中学校数が学校、地域住民（文化財展示室ボランティア）、社会教育課（資料館など）による地域協働学校事業の指標となるため		
活動	単位	校		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	2	1	1
	実績値	2	1	
指標 2	指標名	ボランティア参加人数		
	説明	文化財展示室ボランティアへの参加人数が地域協働学校の活動や郷土ふじみ野を理解する市民の育成をはかる指標となるため		
活動	単位	人		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	30	30	30
	実績値	25	25	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>今年度の実施内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 さぎの森小学校では、文化財展示室の活用として4月の保護者会に合わせて2日間、保護者と児童に公開を実施した。</li> <li>2 東台小学校では、東台小学校文化財展示室構想に基づく構成案を作成しこれに従って文化財展示室の設置作業を終了した。</li> <li>3 西原小学校では西原小学校の特色を生かした展示内容とするため、西原小学校周辺の地元の方に聞き取り調査を行い、合わせて文化財展示室ボランティアと地元の有志の方が東台小学校文化財展示室の見学を行った。</li> <li>4 文化財展示室の公開について、市外からの視察依頼1件があり、さぎの森小学校と東台小学校の見学を実施した。</li> <li>5 福岡中学校では玄関脇の展示ケースを利用し、上福岡貝塚と火工廠に関する展示を行った。</li> </ol> <p>以上の活動により、収集資料の利活用と地域住民の新たな参加を増やすことができた。</p>
--------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市内の各小学校に文化財展示室の設置を進めるとともに、文化財展示ボランティアや地域住民と協働で小学生への授業などへの活用と広く公開を目指していく。
中長期的方向性	
継続	



# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		郷土資料館管理運営事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目					
一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費					
所管部課		教育部 大井郷土資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等					
ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館運営協議会規則					
事務事業の内容	事務事業の目的	資料館を通して、地域の歴史に密接した資料を収集・保存し、多くの市民に展示公開する。			
	事務事業の経緯	市民の学習・憩いの場として昭和63年に開館。当該管理運営業務は、常設展示室、郷土学習室、事務室、資料室の維持管理を主な業務としている。平成25年度からは学芸係長を配置し、展示、資料の問合せ等の対応を図っている。現在、大井郷土資料館常駐の職員は、管理係3名、学芸係2名である。			
	事務事業の概要	常設展示室は、開館当初に原始・古代から現代に至る時間の流れに沿った資料を展示するように設計されており、それぞれの時代にあった収蔵資料を随時展示している。また、特別展及び季節展示等を開催している。			
	令和元年度の主な取組	資料館においては、多くのニーズに応えるためアンケート箱の設置や館内の環境美化につとめ、来館者が見学しやすい空間となるように努力した。主な取組としては、展示資料を見やすくするために展示室天井の照明をLED電球に付け替えた。旧大井村役場については、令和元年に台風の影響で被害を受けたグラウンド側内壁の上塗り修繕を実施し、窓枠にピンチブロックを設置して風雨対策を行った。特に文化財である庁舎について、保存のみではなく活用について検討を行うと共に登録有形文化財としての維持管理に努めた。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.34	1.40	1.90
		人件費	10,849	11,170	15,159
	再任用職員	従事人数(人)	0.40	0.40	0.40
		人件費	1,473	1,538	1,538
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		12,322	12,708	16,697	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	456	529	460	
	委託料	370	272	335	
	使用料及び賃借料	43	45	34	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	444	51	75		
支出合計		13,635	13,605	17,601	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		13,635	13,605	17,601	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		119	119	151	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者数の増加		
	説明	市民のニーズを反映した資料館運営を行い、地域密着型の社会教育施設として入館者の増加を目指す。令和元年度はコロナウィルスの感染防止対策として3月中休館したため、入館者の減少があった。		
成果	単位	人		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	9,000	9,000	9,000
	実績値	8,079	7,722	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>来館者を迎える展示室は老朽化しており、そのため全体的に暗く、展示室内の照明についても以前から照明器具の球切れが頻繁に発生するためLED化への検討を進めていたが、LED電球の交換だけでLED化が可能であった為、交換箇所から順次交換を行い、令和元年度には概ねのところ完了している。その結果、展示資料が見やすくなり、来館者の展示資料観覧環境が向上した。</p> <p>旧大井村役場については、令和元年に風雨の影響を少なくする為、窓枠にピンチブロックを設置して台風などの対策を行なった。これにより、雨や落葉などが室内に入り込みにくくなり、登録有形文化財としての維持管理がしやすくなった。</p>
------------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	常設展示室は、開館当初に原始・古代から現代に至る時間の流れに沿った資料を展示するように設計されており、それぞれの時代にあった収蔵資料を随時展示している。また、特別展及び季節展示等を開催している。これらは地域の歴史や暮らしを理解するにあたり重要な役割を持つと共に、地域への愛着を深めるものである。
中長期的方向性	
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		収蔵資料整理事務		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目					
一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費					
所管部課		教育部 大井郷土資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等					
博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館の資料に関する規則					
事務事業の内容	事務事業の目的	郷土の歴史に関わる資料を収集し、それを展示等の教育普及事業でも活用できるように整理していく。			
	事務事業の経緯	ふじみ野市資料館条例第3条に資料館の業務の一つとして「市の歴史、考古、民俗等に関する資料の収集、保存及び調査研究に関すること」が謳われている。これを受けて資料館は開館以来資料の収集、保存及び調査を行っている。			
	事務事業の概要	大島家収蔵資料等の諸家文書の整理を行う。 収集資料を紙の台帳に手書きで登録しているが、台帳整理の効率化を図るため、収蔵事業のデータ化を進める。			
	令和元年度の主な取組	通年で大島家収蔵資料等について、目録刊行のための整理作業を計550箱実施した。 収蔵資料について順次撮影及び計測等を行い、計400点をデータベース化した。 大井郷土資料館で9回の展示会を開催、収蔵資料の公開・活用を図った。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.40	0.60	0.40
		人件費	3,239	4,787	3,192
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.97	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		3,239	4,787	3,192	
事業費	報酬	0	0	2,424	
	賃金	2,318	2,318	0	
	需用費	82	440	98	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	130	161	559		
支出合計		5,769	7,707	6,273	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		5,769	7,707	6,273	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		51	67	54	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	収蔵資料のデータベース化		
	説明	資料検索・利活用の迅速化を図るため、紙の台帳をデータベース化した資料点数を指標とする。		
活動	単位	点		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	500	300	300
	実績値	505	400	
指標 2	指標名	大島慶一郎家寄贈資料分類整理		
	説明	資料整理・公開に向けて目録化作業を行った資料点数が指標となるため		
活動	単位	点		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	500	300	300
	実績値	550	550	
指標 3	指標名	収蔵資料の特別公開		
	説明	旧大井村役場の公開事業を含む展示会の開催回数が収蔵資料を公開する機会の指標となるため		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	8	10	10
	実績値	12	9	

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>1 文化財資料の収集及び収蔵資料の整理事業 地域の歴史・文化を明らかにするため、文化財資料の収集・調査を行った。令和元年度も貴重な民俗資料及び歴史資料を寄贈していただき、寄贈された資料は各館で台帳に登録し、収蔵庫に大切に保存した。さらに資料の社会教育、学校教育の場での活用を図るため、分類整理を行った上で目録化を進めた。郷土に残る伝承や技術など無形の文化財についても調査、記録化を行い将来への継承を図った。また、資料の調査や整理の成果は、一部資料館通信等でも紹介した。</p> <p>(1)大井郷土資料館令和元年度受け入れ資料 民俗資料 6点 歴史資料 25点 郷土図書 86点</p> <p>2 データベース化・デジタル化の推進 紙ベースによる従来からの資料管理では、年々増加する収蔵資料への対応が難しくなってきた。そこで、収蔵資料台帳のデータベース化を進め、資料に関するデータの修正等を簡易にし、あわせて検索の迅速化など資料管理の能率化を目指した。</p> <p>3 大島家文書分類・整理・目録化 戦後大井地域の歴史、特に地域医療活動を知る上で重要な大島家文書について、分類整理を行い、整理の完了した分は平成25年度に『大井医院・大島慶一郎関係資料目録』として刊行した。現在は『資料目録』の刊行をめざし、分類・内容の確認とあわせて、目録化作業を進めた。</p> <p>4 文化財展示室設置に向けた資料整理と保管スペースの確保 社会教育課文化財保護係と連携している市内小中学校における文化財展示室設置に向けて、資料館収蔵庫等の資料整理を実施した。</p>
--------------	---

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	収蔵資料の整理分類と登録、収蔵、保管は資料館の存在意義に関わる事業である。また、市民への公開（展示）をはじめとする資料の利活用の推進と郷土の歴史・民俗の掘り起こし、調査の基礎となる事業である。
中長期的方向性	
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		郷土資料館教育普及事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 大井郷土資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年度7月3日
個別計画 根拠法令・条例等		博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	地域に関連した収集資料を基に事業展開し、市民に展示すると共に、子どもには体験を通して郷土に対する理解・関心を深めてもらう。			
	事務事業の経緯	ふじみ野市資料館条例第3条第2号には、館の業務として資料の展示及び知識の普及並びに啓発に関することが謳われている。当該事業は、これに基づいて実施しているものである。			
	事務事業の概要	一般〔大人〕向けの事業として古文書講座や展示会等を実施。なお、特別展は上福岡歴史民俗資料館と隔年で開催していたが、平成28年度からは展示スペースの問題から大井郷土資料館で実施、図録作成・頒布を行っている。また、資料館文化財ボランティアを運営している。 子ども対象の事業としては藍染教室、縄文土器作り教室の他、上福岡歴史民俗資料館との共通事業で社会科体験学習や郷土の伝承あそびを実施している。			
	令和元年度の主な取組	展示事業は、特別展「ふじみ野150年~明治から平成まで~」、企画展「和紙人形の世界」「昔のくらしと昔の学校」、巡回展示「最新出土品展」、ミニ展示「五月人形展」「土器作り教室作品展」を開催した。特別展開連事業として記念講演会「にっぽん家電のあゆみ」、学習講座「トークライブ：地元クリエイターが語る80~90年代の青春」を実施した。体験学習は子供対象の「郷土の伝承遊び」「藍染め教室」「縄文土器作り教室」、小学校3年生対象の「昔のくらし」、一般向け学習講座は「古文書講座」を開催した。旧大井村役場を活用した事業として、NPO法人主催のコンサートや活用モニター事業のコンサートの他、福祉課と連携し「オレンジカフェふじみん」への会場提供を行った。 資料館文化財ボランティアの連絡会議を開催し、ボランティア活動の支援を行った。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.70	1.10	0.70
		人件費	5,668	8,776	5,585
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.10	0.10
		人件費	369	385	385
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.65	0.00	0.00
	人件費	0	2,306	0	
人件費計		6,037	11,467	5,970	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	543	657	662	
	委託料	431	470	500	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	276	231	322	
支出合計		7,286	10,518	7,454	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	49	34	32
一般財源		7,237	10,484	7,422	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		63	92	64	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	展示会の回数		
	説明	継続的な実施回数が評価の有効な指標と考えるため		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	7	10	10
	実績値	9	9	
指標 2	指標名	講座・体験学習の実施		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化、歴史資料に対する意識の高揚を図る指標となるため。		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	7	7	7
	実績値	9	15	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	1 展示事業
	<p>(1) 特別展「ふじみ野150年～明治から平成まで～」会期10/23～12/8（会場：郷土学習室・常設展示室） 記念講演会「にっぽん家電のあゆみ」11/9（会場：研修室）33名 学習講座「日本初！ふるさと納税返礼品ゲームを作ってみた/トークライブ：地元クリエイターが語る80～90年代の青春」11/30（会場：大井郷土資料館）26名</p> <p>(2) 企画展 巡回企画展「最新出土品展」会期7/20～9/1 企画展「和紙人形の世界」会期9/10～10/29</p> <p>(3) 季節展示・ミニ展示 季節展示 4回（五月人形、天王様、正月飾り、ひな人形） ミニ展示 1回（縄文土器づくり教室作品展）</p>
	2 教育普及事業
	<p>(1) 博物館学芸員実習生と市内中学生職場体験受け入れの実施。小学校3年生対象社会科体験学習及び展示「昔のくらしと昔の学校」（会期1/14～2/17）を実施した。</p> <p>(2) 子ども対象体験学習（郷土の伝承あそび3回を含む）を年5講座実施。</p> <p>(3) 大人向け講座として古文書講座を実施。</p> <p>(4) 団体見学者の受け入れ、資料館文化財ボランティアの運営等を実施。</p>
	3 旧大井村役場展示・活用事業
	<p>(1) 展示・活用事業 嶋田忠写真展（7/2～15、486名）、NPO法人主催のコンサート（7/20、48名）、オレンジカフェふじみん（9/12、9名）、ライアーコンサート（12/8、30人） 上記1～3の事業を通して、郷土の歴史に対する理解を深める機会を提供するとともに、資料の公開及び活用を進めた。</p>

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民にとって最も身近に接することが多い常設展示に加えて、資料館と市民が一体となって実施する特別展、市民が講師になる体験学習や講座は、地域の歴史や文化を伝えるために必要不可欠な事業である。今後も「郷土ふじみ野」を市民に再認識・再発見してもらうための重要な機会として継続していく。
中長期的方向性	
継続	

# 令和元年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		福岡河岸記念館管理運営事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ~地域の絆で育む学びのまち~			
	施策	39 文化財・郷土資料 - 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます -			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 福岡河岸記念館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度~		評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市立福岡河岸記念館条例、ふじみ野市立福岡河岸記念館条例施行規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	明治期に建築され、当時の商家形態がうかがわれる建築範例として貴重な建物であるため、市有形文化財として指定を受けた建物を市民に公開し、歴史や文化を知ってもらおう。			
	事務事業の経緯	昭和62年、旧福田屋敷地及び指定文化財である建物の所有者から寄贈を受け、復元整備を行い平成8年に福岡河岸記念館として開館した。			
	事務事業の概要	歴史的建造物である回漕問屋「旧福田屋」を復元し、郷土の歴史と地域の文化について学ぶ場として公開、平成30年度からは「離れ」の2、3階を月1回の割合で特別公開している。			
	令和元年度の主な取組	施設特別公開日を設け、記念館全体の解説ができるよう、ボランティアと協働でツアーガイドプログラムを作成し、来館者への対応を充実した。人材不足解決のため市民大学と連携し、解説ボランティア養成のための講座を開いた。 地域と一体となった取り組みを充実するため、「福岡河岸まつり」開催に合わせた記念館の無料開放や本館主催の自衛消防訓練の周知を行った。			

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.90	0.90	1.10
		人件費	7,287	7,181	8,776
	再任用職員	従事人数(人)	0.60	0.60	0.60
		人件費	2,209	2,307	2,307
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		9,496	9,488	11,083	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	405	5,049	668	
	委託料	4,240	4,100	4,510	
	使用料及び賃借料	763	756	770	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	311	313	376		
支出合計		15,215	19,706	17,407	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	211	157	186
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	3,890	0
一般財源		15,004	15,659	17,221	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		131	137	148	

報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標	指標名	入館者数		
	説明	「離れ」の特別公開日を祝日及び地域のまつりの日に公開すると共に、市報やホームページ、市内の学校などに宣伝を行い記念館での事業の展開（伝承遊び等）を図る。令和元年度は、台風の影響や新型コロナウイルスの感染拡大防止のための3月休館も一因となり、入館者の減少となった。		
活動	単位	人		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	3,500	3,500	3,800
	実績値	3,763	2,654	
指標	指標名	特別公開・特別講座・イベント等の開催による入館者の増		
	説明	入館者の少ない時期に講座、特別公開等を実施することにより、新たな入館者の増加を目指す。また、定期的な特別公開においてボランティアによる解説を取り入れることにより更なる増加を図る。令和元年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月の特別公開2回とフォトコンテスト表彰式、「古民家で聞く落語」が中止となった。		
活動	単位	人		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	400	400	700
	実績値	776	677	
指標	指標名			
	説明			
活動	単位			
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>平成29年度に改修工事が完了し、平成30年度から特別公開日を設け、非公開となっていた部分や全体的な説明ができるよう、ボランティアによるツアーガイドを行った。このことにより、来館者への対応が充実し、遠方からの来館者や市内市外の来館者数の増加が期待できる。</p> <p>また、解説ボランティアの人材養成のため、市民大学と連携し解説ボランティア養成講座を開き、新たに2名が登録された。</p> <p>「福岡河岸まつり」開催に合わせた記念館の無料開放や本館主催の自衛消防訓練の周知を行うことで、記念館の存在が地域の方々への理解へつなげると考える。</p> <p>1 展示事業</p> <p>(1)5月人形展 4/18(木)～5/9(木) 300人</p> <p>(2)和紙人形の世界～小さな世界のくらし～ 10/5(土)～11/24(日) 476人</p> <p>(3)福岡河岸記念館フォトコンテスト作品展 2/1(土)～3/1(日) 164人</p> <p>(4)ひな人形展 1/31(金)～3/1(火) 162人</p> <p>2 講座・体験事業</p> <p>(1)福岡河岸記念館講演会 5/12(日) 31人</p> <p>(2)昔のくらしとあそび・着物体験&amp;むかしのおうちできく、むかしばなし 7/7(日) 41人</p> <p>(3)はたおり「裂織りで作る小敷物」 11/16(土) 7人</p> <p>(4)学習講座：市民大学「ふじみ野の歴史再発見」第1回 12/19(木) 12人</p> <p>(5)学習講座：市民大学「ふじみ野の歴史再発見」第2回 12/26(木) 12人</p> <p>3 地域協働</p> <p>(1)「福岡河岸まつり」への協力 無料開放・特別公開 8/17(土)</p>
--------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	江戸時代から明治時代中ごろにかけて新河岸川舟運で栄えた福岡河岸には、往時の様子を伝える貴重な文化遺産が残されている。本館は、市指定文化財回漕問屋福田屋の建物を保存・公開して、舟運と問屋の暮らしを展示している。明治初期の船問屋を再現しており郷土の歴史と文化を理解し地域への愛着を深めるものである。
中長期的方向性	
継続	